

附  
屬  
書  
類

外  
務  
省

3-0061

0432

第百四号 三ノノノノノ

申

申

抄本

本

各官各務 多者多務 横台是近之國

願之与務 横台是近之國 規則及之徳実

願之与後 規則及之徳実 規則及之徳実

願之与後 規則及之徳実 規則及之徳実

申

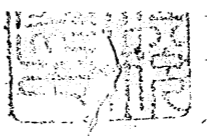
申

外務省

申

寫濟

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or reference.



解字局  
叶抄七号

新詳の

取平作あましく 法親分強立と  
政の各回録事口協政不協政之條  
件と身少ん事一様法親分強立と各回  
録事口と性多と書物原之字句  
並平分るる事と身口令之也

抄方租税

西宮の事

三〇七七の事ハ十三号 大藏省

受符録

印

上野

上野

辨字局

辨字局

親平并おまゝに法親を預立に  
為り各回録事には協致不協致之條  
外には...

上野

上野

口指の三ヶ条に東に親平  
上右右司也田不入  
当令云云但上御論中上上連御成上云云

三日月七のちり十三

大藏省

受付録

第百五十五号 三十一号

第百五十五号



抄方租税改定 各省各府  
教員おのり後叙別 没主と係  
多國版より九協候に協候し候  
紳と官と之年極厚税并上各國形  
性多き者協候又官の是より  
有主事協候事年々入る候日  
事主事並に是の是より  
是の是の是の是也

外務省

明治五年三月廿四日

寫

寫

羽

新刊局

中二十九号

新刊局

卷

左

受符録

受符録

語規則後立之際、  
多指像の條件、  
領事上往復書牒和文差違不  
振出、  
寫字格未也

三月二十日

松方和税課

外幣大少急

送付

三原書 牙三百号

大藏省

第十四号

来ル第<sup>九月三日</sup>九日<sup>ヨリ</sup>以来運上所ノ可出

高貨陸揚々船積之願居ハ條約<sup>海</sup>基

製シタル居式ニ格可シ右ハ運上所ノ願

出候ハ無代ニテ与フ可シ

右居式ハ陸揚船積免許之願居ト一

様ニシテ税銀運上所ニ於テ算計シ居

入ル可シ

願居ハ相取又適當之税額ヲ定メ之ラ居

入レテ後其免状ヲ與フ可シ且又其窮ノ

大藏省

收税セシニ於テハ受取証居ヲ與フ可シ税

銀相收シ後(或ハ都合ヨリ收税ノ前)

ニ高貨ハ検査マヘシ且之ヲ引渡シ又之ヲ

船積シ得可シ

無税品積込船積等ノ居式ハ用意中

ナリ右ハ出来次第之ヲ布告ス可シ

下名之抽者目今強サトスルノ方法ハ

居留高民等ノ注意アラシラ欲ス且又

運上所之事務ヲ簡易ニセシ事ヲ

併セテ希セヌ

後来当税関より出ス布名ハ唯ジャパ  
ハラド局ニ限ル可シ

一千七百二十一年

税関長官

八月廿六日

本野盛彦

大藏省



寫濟

拝啓  
折本  
中左

向後税関  
廻濟款  
サレハ  
ラサ  
可致報知

右之趣上野君迄申進

大藏省

此段中進  
此段中進

岡本局長

一千八百七十二年  
九月七日  
ブレニウツールド

運上野長官

赤野 義彦 下

大藏省

3-0061

0441

過日新聞紙を以て長官代任本野  
盛亨及布告儀、付本月第七日  
し以書翰送答ふに陳者本年第二  
月十六日各國領事此評議に盡る  
之に被中越越越越越此稅領  
事は打合ふりしに條に以載書、其  
の旨若し中越越越書面を以當局に見  
し野上野氏迄及尙合ひる當て及  
以約定し越越者も全條約面を對

大藏省

一は示決可及之條し布告に限り外  
者中越越越越此規則及之儀者  
拙者於て今般始に承知し、  
稅付此度改る各國領事し以整  
考り之換以、  
突友多に以評議も可之貴方、  
斷裁せし以多者、  
規則と、  
村、  
為裁決し下し出、

障紙ヲ以テ布告ヲ出セリハ偏ク衆多  
シ外國人ノ示スル可ク先ニ其ノ  
之ニ對シ人毎ニ告示出スルノ煩ニ至  
リ今布告ニ應ル之ニ先ニ之  
ヲ録シ置キ儀一其ノ定ヲ待テ  
實ニ其意ヲ知存ルハ保持者於  
テハ事柄ニ依テハ各國録多ク且至終  
可及儀ヲ解テ了解シテ一其ノ  
宜儀ニ依テ作テ出スル可ク必  
其旨ニ依テ施シテ其ノ旨ニ依  
テ

大藏省

し如儀ニ當然程異ニ於テ措裁  
領行可ク其旨ニ依テ之ヲ録シ置  
キ其旨ニ依テ施シテ其旨ニ依  
テ

千八百七十二年  
九月十日  
中山和親權次

瑞西國物録

ブルニウラールド書下

高濟

程廣布告書の案は第百附ブレニ  
ワルド氏より之書翰に送還するとして  
第九月十日附ノ貴翰過月十九日集會  
ノ節右領事特見致し候然し其案  
ブレニワルド氏より申上候一條ノ書而貴  
所記録中ニ御見當り無之趣且上野  
氏法申越ニ條約有且其政府ト各  
各領事トお方一致ノ儀際要之可  
キ事而已御約定お成山方又各領

大藏省

事ニテ右約定ノ以第百再考可也  
様法中越ノ趣番細承知仕候乍  
係布告書ハ当港外田実際上ニモ關係  
致候事故右布告書ヲ最初ニ各領事迄  
御通返可右之約定ニ付税関長官ト議議  
ノ爲メ右領事ヲ誘引致し候此牙ヲ今又  
再考致候儀ハ無益ノ事ニ被存又右等ノ  
約定整濟ノ去聊カ得障有之向敷候且当  
方ニテ右等約定ノ書託ヲ要ヤルノ理ハ集會  
之節出席ノ一人ハ税関長官口上ニテ約定被

致其約定ヲ書託有之度旨申出候得ハ上  
野氏約定ニ信用難致庸有之候事ト相成  
候儀ニ有之候又既ニ整タル右約定ヲ當方ニテ  
可致標即申聞有共儀ニ及ヒ候処税関當今  
ノ改正ニ付右等ノ約定ヲ要スル如キ事件再起致  
間敷候ニ付テハ向後各条約ニ關係スルノ貿易規則  
ニ基キ候カ又ハ右等規則ニ充分改正ニモ可相成  
ノ總テ布告書ハ各領事ニ御構無之御公告可  
有之條其節右布告書ノ寫ヲ御公告撒ラトスル  
前新旧條約書及貿易規則ニ縣令ト各回領事

大藏省

ニ關シタル規則ヲ設クル時ハ之ヲ公告スル前ニ此迄モ  
如ク之ヲ領事ニ議シ其許可ヲ受クヤ旨相見ハタリ  
領事等税関又ハ貿易ニ係ル事件ハ凡テ縣令上而  
已候元ノ旨ハ存ニ置キ新舊条約書貿易規則ニ  
於テ縣令ノ名目出其趣意税関ニ關涉スルノ場所  
者之ヲ運上所長官ト看ナカニテヲ希理致候税関ノ  
規矩益充備スルハ領事事務モ又後テ容易ニ  
趣候故ニ敢テ毫モ領事等ニ於テ税関ノ事務  
ヲ障礙スルヲ欲ヤズ其權威ヲ殺抑セテ欲ガレ也  
故ニ是レ止テ如ク税関ハ領事ノ半督理ヲ受ラレ

度候モ之後子税関ノ有司ニ然ラハル御處置アリテ  
領事等之ヲ痛恨致シ務様ノ改葬之ニ有リ候テハ  
不都合ニ存候也

一千八百七十二年正月十九日

和蘭領事 エド、ホドイン

以大利領事 デバルリス

葡萄牙領事 イロレーロ

瑞西總領事 シブレニウラールド

日耳曼總領事 イド、ハツヤ

英吉利領事 兼 澳地  
利匈牙利領事 ロッセルロバルト

大藏省

佛蘭西領事 タスカルコレラー

合衆國領事 シマ、エバルト

布哇代總領事 イム、ウエニリイト

比利義副領事 イ、クルロシ

丁抹總領事 イ、デビール

運上所長 官中山讓治 号下



寫濟

予

各稅關於前所擬修訂規則之內各關領  
事一應協助不協助之分可備可事出  
此年中一應協助不協助之分可備可事出  
直屬各省商左去類區次之等也  
皆調查出來之件別記之也  
於八丹等處中一應協助不協助之分可備可事出  
申 進呈也

稅務司稅項代理

告原稅項稅項

外務部大臣

申

大藏省

要請



寫濟

記

一 橫濱税関分

布告文

七冊

英國之部

七冊

仙國之部

七冊

各國領事令務之部

七冊

米國之部

七冊

荷國之部

七冊

各國領事令務之部

七冊

一 七冊

日臣文

七冊

大藏省

一 東京の同人居留地税関

日原文

七冊

一 神戸税関分

各玉領事令務往復差規則中略

三折三冊

日原文

折八折

布告文

七冊

日原文

七冊

一 七冊

一 大阪税関分

同考規則

七冊

七等 祝宴分  
一 延 祝宴分  
一 新 祝宴分

経 務 部 共  
喜 冊 記

三 冊

五 禮 文

一 冊  
一 冊  
一 冊

大 藏 省

外務省

外務省

補

外務省

一、一九〇四年二月廿七日

下、駐米大使館に於て、米國領事館に於て、

米國

米國領事館に於て、米國領事館に於て、

米國領事館に於て、

米國領事館に於て、米國領事館に於て、

米國領事館に於て、米國領事館に於て、

外務省

規則編制に關する案を提出せしむるに當り、

國務院に於て、國務院に於て、

新正に在りて、新正に在りて、

米國領事館に於て、米國領事館に於て、

米國領事館に於て、米國領事館に於て、

ホニウツケリン

外務省

外務省

寫濟

一覽表

類編

封

五馬

外務省

左の如く



外務省

外務省

外務省

一千九百零四年二月廿七日 横濱 於て

下ノ姓名を載セヨ 如葉國皇太子陛下ニ付テ

ヨリ

天皇陛下ニ付テ外務省事務官長官ニ付テ

事務官長官

如右ノ如ク下ノ姓名を載セヨ 如葉國皇太子陛下ニ付テ

運送ノ所想列スルニ付 今儀者ニ付テ又右

外務省

外務省

外務省

外務省

外務省

外務省

外務省

外務省

外務省

七十四年二月廿七日

一覽表

外務省